

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071100640		
法人名	有限会社 同朋		
事業所名	グループホーム 同朋		
所在地	福岡県福岡市南区横手3-37-24 〒811-1311 (電話) 092-502-5061		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年12月6日	評定確定日	平成20年1月11日

## 【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 8月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	16人
職員数	15人 常勤	6人 非常勤	9人 常勤換算 14.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5階建ての～ 1～2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有( )円	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(100,000円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日あたり 1,500円程度			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	16名	男性	3名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	1名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	75歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	馬場外科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体である老人福祉施設、老人保険施設の施設長が、地域の高齢者に対して、施設とは違う生活を支援していきたいという想いをもって6年前に開設された。施設長が個人で所有している5階建ての集合住宅を改築し1階と2階に居を構える都市型のグループホームである。周囲も集合住宅が多く、ベッドタウンとして買い物や交通等の利便性が高い。調査当日は近隣の短大からボランティアの学生が来訪し、入居者や職員と歓談しながら穏やかな時間を過ごされていた。理念である「アットホームな暮らしの中で、その人らしさを大切に、笑顔と優しい心で生活支援」の通り、気負わず、快適な暮らしを共に過ごす生活への支援が感じられた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について家族会や運営推進会議時に報告を行い、職員へは会議時に内容の周知、提案事項について協議し、質の向上への取り組んだ。この過程で地域との交流を図るなどの成果が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価に際しても職員全員で話し合いながら自己評価を行った。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 区長、民生委員、包括支援センター職員、家族を招き、昨年の6月より2ヶ月毎に開催している。ホームの概要や外部評価の結果、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の説明を行うなどの取組みがある。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 毎月の便りや、行事の報告、新入職員や入居者の入れ替わり等を報告している。又、家族の来所時や電話等で個々の現況報告、健康状態などを伝えている。加えて、苦情箱の設置や、運営推進会議等を通じて、意見や思いなどの表出のための取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地域行事への参加、地域の商店の利用、地域の学生ボランティアの受入れや幼稚園行事への参加、自治会を通じてのホームだよりの回覧など、地域との交流の機会を積極的に捉え、かかわりを意識して運営に取り組んでいる。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりの、その人らしさを支える ケアと自宅での普通の生活に視点を置いた理念 の作成に取り組んでいる。		地域密着型サービスへ移行したことを受け て、地域密着型サービスの意義の理解を深め、 職員全員での理念の再構築への取組みを期待 します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの玄関に掲示し、申し送り時に唱和 を行っている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域行事への参加、地域の商店の利用、地域 の学生ボランティアの受入れや幼稚園行事への 参加、自治会を通じてのホームたよりの回覧な ど、地域との交流の機会を積極的に捉え、かか わりを意識して運営に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について家族会や運営推進会 議時に報告を行い、職員へは会議時に内容の周 知、提案事項について協議し、質の向上へ取り 組んだ。この過程で地域との交流を図るなどの 成果が見られる。今回の外部評価に際しても職 員全員で話し合いながら自己評価を行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、包括支援センター職員、家族に参加していただき、昨年の6月より2ヶ月毎に開催している。ホームの概要や外部評価の結果報告、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の説明会を行うなどの取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ている。その際、職員が地域包括支援センター職員に運営推進会議の役割や意義などの質問を行うなど、行政との関係作りに取り組んでいる		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	所長、管理者は成年後見制度や地域福祉権利擁護事業研修に参加しており、運営推進会議時に制度の概要や利用手順等について説明しており、実際に制度を利用している入居者の支援もしている		勉強会等を通じて職員へ制度についての理解の促進を図ると同時に、高齢者に利益をもたらす制度の一つととらえ、今後共、利用者・家族・地域にむけての情報提供や周知への取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の便りで、行事の報告、新入職員や入居者の入れ替わり等を報告している。又、家族の来所時や電話等で入居者個々の現況報告、健康状態などを伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や、運営推進会議等を通じて、意見や思いなどを表出していただくような取組みがある。		現在計画されている家族との個別面談やアンケートの実施等により潜在する意見などを能動的に汲み取り、運営に反映させる取組みを期待します。
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間での離職は1名のみであり、法人内での職員異動は極力回避している。新入職員には、各フロア - の責任者が、その都度アドバイスを行い、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。職員自身も楽しいと思う職場づくりを目指している。資格取得を目指す職員に対しては勤務調整を行うなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育として、特に勉強会等を利用したの説明は行われていないが、入職時の基本指針の説明と同時に、日々のかかわりの中で伝えている</p>		<p>高齢者や福祉に関わる問題に加えて、広義としての人権問題についての理解を深めるため、行政主催の講話会等に参加したり、行政より講師を招聘し勉強会を開催するなど、啓発活動への取り組みを期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者から指名して、職員が均等に外部研修へ参加出来るよう配慮している。また、研修参加後は、会議にて報告を行い知識の共有に努めている。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域にある他事業所との交流への取り組みは今後の課題である。</p>		<p>地域の同業者と交流する機会を通じて、新たな発見や気づきをうむ機会を持ち、更なるサービスの質の向上に向けての取り組みを期待します。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに來訪していただき、食事を 共にするなどの、体験利用を通じて、馴染みの 関係づくりへの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	料理の下ごしらえや調理方法、昔の風習や言 い伝えの由来など、日常のかかわりの中で自然 と学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、 意向の把握に努めている。困難な場合 は、本人本位に検討している	入居者との日々のかかわりの中や家族との会 話等から入居者一人ひとりの思いや希望の把握 に努め、書式に記録している。		今後は、家族面談の実施による家族の思いや 意向の把握とともに、入居者の思いや暮らし方等 の希望の変化などを引出し、特にホームでの暮ら し方への希望がケアプランに十分に反映するよう に、さらなる取り組みを期待します
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	入居時に情報収集した生活歴や希望、家族の 意向等に基づき職員が意見交換を行ない、介護 計画を作成するなどの取り組みがある。		現在取り組み中である、入居者の意向・希望な どの把握、家族との個別面談等が、施設介護 サービス計画書に反映され、入居者本位の視点 での介護サービス計画書の作成及び支援への取 組みを期待します。




外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	毎月のスタッフ会議における協議やミー ティング等で、意見を交換する等、必要 に応じたその都度の話し合いが行なわ れている		現在取り組み中である、月に1度のカン ファレンスを実行し、モニタリング表 による見直しを活用するなど、更なる 情報の共有化に努め、入居者の現状の 把握と現状に即した介護計画の作成を 期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている	散歩時に地域の方の高齢者に関する 悩みの相談に応じたり、見学者の受 入れ、かかりつけ医の病院受診の付 き添いなど可能な範囲内で、事業所 として対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切 な医療を受けられるように支援し ている	ホームとしてのかかりつけ医が あり、緊急時の対応が可能である。 また、ホームのかかりつけ医 による2週間に1回の往診がある ほか、以前からの入居者の馴染 みのかかりつけ医の受診につ いても対応可能である。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の 共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段階 から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全 員で方針を共有している	新規入居者に対しては、契約時 に重度化や看取りに関する指針を 示して説明を行い了承を得てい る。重度化や緊急時においては、 状況に応じて、家族・主治医を 交えてその都度協議し、方針を 共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者に合わせての丁寧な声かけや馴染み のある声かけなど、入居者を尊重した言葉かけや 対応が見受けられた。個人情報記録等は各階の 事務所で保管・管理している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	個々の入居者の生活リズムに配慮して、食事 にかかる時間や、居室やリビングでの過ごし方 など、入居者のペースに寄り添った対応が見受 けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事介助の必要な入居者の傍に職員が付き添 い、入居者に合わせてのゆっくりとした声掛け や支援をおこなうなど食事が楽しみとなるよう な工夫がある。下膳や食器洗い、茶碗拭きな ど、入居者の出来る範囲での取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的に隔日で入浴を実施しているが、毎日 午後入浴が可能であり、入浴するタイミングやか かる時間など入居者の希望に沿った支援があ る。入浴を拒否される場合も、タイミングを見計 らって声掛けを行い、無理強いすることなく入 浴を楽しめるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	洗濯物たたみ、食事準備や後片付け、台拭き、 日常の買い物、散歩、ドライブなど、入居者の特徴 をよく観察した上での、役割や気晴らしに対す る支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	車椅子での外出や、日々の買い物、散歩、気 候の良い日のピクニックやドライブ、バスハイ クなど、入居者の希望やその時々にあわせての 柔軟な対応がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	ホーム出入り口の先が、交通量の多い通りに面 しているため、安全策としてリモコンで管理さ れている。家族へは説明を行っている。		建物の立地条件や構造上、非常に難しい課 題かと思われませんが、状況に応じて開錠への 段階的な取り組みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	火災報知機を設備して災害時に備えている。 また、近隣や同建物の住民に周知して、定期的 に避難訓練を行っている		非常災害時における協力体制や緊急連絡網 の作成など、運営推進会議での提案等を通じ て、地域との協力体制作りへの取り組みを期待 します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	献立からおおよそのカロリーを計算し、食事 量や水分摂取量をチェックすることによって栄 養バランスや水分量の把握に努めている。水分 チェックの必要な入居者へは、ミルクや珈琲な ど目先をかえる工夫をするなど、水分摂取量の 確保に努めている。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然採光を取入れ、程よい明るさ に調整が行われている。換気は、窓の開閉によ る自然換気が行われており、生花が飾られるな ど、居心地よい空間づくりへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇、寝具、箆笥、ベッド、テレ ビ、ぬいぐるみ、生花などの馴染みの品や装飾 品が持ち込まれており、入居者にとって居心地 の良い居室づくりへの配慮がみられる。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号